

リフレッシュ滋賀

第14号

連合滋賀・高退協会報

発行責任者: 吉村眞明

編集責任者: 吉川浩次

大津市松本2-10-6

電話: 077-523-0500

結成十周年を迎えて**急がず休まずひたむきに**

連合滋賀高齡・退職者団体協議会会長 吉村 眞明

連合滋賀高齡・退職者団体協議会は結成
満十年を迎えました。偏に連合滋賀現役
役職員の方々の、物心両面に亘るご支援

と、ご協力の賜と深く感謝申し上げます。
また、退職者連合本部のご指導と、近
畿地方連絡会の仲間の積極的活動に大き
な刺激を受け、啓発されたことにも、
厚くお礼申し上げます。

現役時代は、運動の理念を異にし、
時には対立して活動を実践した者の
OB組織が連携して、果たしてうま
くゆくのかと危惧しましたが、杞憂
に過ぎず、心合わせもすっかりとで
き、力合せもできるようになったと
信じています。

日本人の平均寿命は更に伸びて、
男性七十八歳、女性八十五歳と、女
性の半数が米寿を祝えるという、世
界一の長寿国日本となりました。ま
ことにおめでたい事であり、誇らし
い事です。日本の政治・経済・社
会のいずれを見ても、高齢者にとつ
て厳しいものばかりであり、安心し
て暮してゆける、やさしい生活環境
ではありません。

さきの国会では、その不安に追い
打ちをかけるように、改正健保法な
ど医療制度改革関連法が成立しまし
た。安心と信頼の社会保障制度の未

来図を描くことなく、国民に痛みばかり
押しつける政治のあり方に、激しい怒り
を覚えます。

十周年を迎えるにあたり、決意を新た
に、改革者の気概をふるい立たせ、現役
連合の皆さんと一体となり、高齢者の声
を代表する組織としての自覚と誇りを持
って、公平・公正な社会 助けを求める

長寿・高齢社会に適合した 社会改革の実現を

連合滋賀会長 下戸 薫

結成十周年を迎えられた連合滋賀高退
協に心よりお祝いを申し上げますと共に、
結成以来、歴代役員の方々と高退協に
参加された構成組織を中心とするOB会
組織のご支援により、地道に運動を積み
上げて戴きましたことに感謝致します。

連合滋賀の高退協は、一九九一年十一
月二十日に結成されました「日本高齡・
退職者団体連合（中央高退連・西田八郎
会長一七万人）」の組織方針に沿って、
翌年六月五日に滋賀県労働会館「におの
浜荘」で産声をあげました。

結成当初の参加組織は、十団体・五、
三四三名であり、中野惣太郎会長（ゼン
セン同盟OBの会）・堀田正雄副会長
（国鉄退職者協議会）・嶋澤順三副会長
（新日電労連石心会）そして北村芳郎事務
局長（全電通退職者の会）のリーダーシ
ップのもとに取り組みが開始され、現在
の吉村眞明会長に引き継がれて運動の前
進ははかられてきました。

この十年は、日本の成長神話が崩壊し
経済・社会・政治の各面で激動と混迷を

人に手をさしのべる社会 誰もが安心して
老いてゆける社会の実現のため、たゆ
みなく、ひたむきの活動を継続すること
を誓い合いたいと思います。

結成十周年を慶び、いっそうのご支援
と、ご協力をお願い申しあげ、ごあいさ
ついたします。

来すなど大きな変革の時代に入ること
となりました。そして、今なお日本の新た
な針路を定めることが出来得ない中で呻
吟する状況にあります。

他方、人口の高齡化は一段とスピード
を増し、世界に類例を見ない長寿・高齡
国家に変貌しつつあり、年金や医療制度
を始めとする社会保障システムの再構築
が喫緊の政策テーマとなっています。

現役である私共、連合の運動も多くの
困難に直面していますが、先輩の築き上
げて戴いた遺産に胡座をかくことなく、
二十一世紀の働き方や生き方、そして長
寿・高齡社会に適合した社会改革を構築
し、その実現に向けて最善を尽くす決意
であります。

長寿が喜ばれ、高齢者が尊敬される社
会づくりへ向け、高齡・退職者の経験と
知恵を次の世代や時代に伝えて戴き、私
ども現職と高齡・退職者の皆様の心と力
を合わせて連合滋賀高齡・退職者協議会
が益々発展されますことを祈念し、結
成十周年のお祝いとさせていただきます。

結成十周年に寄せて

連合近畿ブロック高齢・退職者の会連絡会議

代表幹事 花房 信夫

結成十周年をお祝い申し上げますとともに、結成以来今日までの長い間、高齢・退職者運動の前進と発展を目指しての加盟各会の会員、歴代役員の皆さん方のいろいろの困難を克服してのたゆみないご努力、また、私ども近畿ブロック高退連の日常の活動への積極的なご協力に心からの敬意と感謝を申し上げます。

さて、わが国の少子・高齢社会化はいよいよ本格化し、年金や医療、介護を始めとする社会保障制度や、高齢者の就業などの社会参加の機会拡大の政策はますます重要とされ、その充実と実現は今日の大きな政治的・社会的課題とされています。

に〇三年度予算では社会保障関係費の大幅な抑制方針のもとに、「公的年金の減額」を決定、障害者福祉諸手当や雇用保険の見直しというまさに「弱者いじめの政策」を徹底させ、私たちの暮らしの先行きに大きな不安を与えています。こうした状況を打ち破り、「安心と信頼の社会保障制度」の確立による「暮らしの安定」のための一層の運動の強化がいま私たちには強く求められているといえます。

しかしながら、「聖域なき構造改革」を一枚看板に登場した小泉内閣は、社会保障制度の「見直し」と云う名の「改悪」のみを先行させ、先の国会では改正健康保険法などの医療制度関連法を与党の単独採決での強行成立をはかり、なおさら

滋賀高退協の皆さんが、結成十周年を契機に今日までの活動の成果を踏まえ、七〇〇〇会員の希望を映した創意と工夫に満ちたすぐれた日常活動を展開し、一層の組織の拡大と強化を図られるとともに、退職者連合や近ブロ高退連に結集する高齢・退職者の運動を支え、リードする役割を力強く果たして頂くことを期待してやみません。ともに頑張りましょう。益々のご健闘とご発展をお祈りして、お祝いのご挨拶とします。

結成十周年にあたって

ゼンセンOB友の会滋賀県支部 支部長代行 吉田 剛

「連合滋賀、高齢・退職者団体協議会」が結成十周年を迎えたことを心からお祝いし、結成当初から運動を進めてきた加盟組織として、ともに慶び合いたいと思います。

ゼンセンOB友の会・滋賀県支部として、も今日まで、連合滋賀高退協が目指す

「誰もが安心して暮らせる社会の実現」を目指し、連合滋賀高退協に結集する高齢・退職者の多くの仲間とともに、社会的な弱者の立場にある高齢者の生命と暮らしを守るため、「日本高齢・退職者団体連合会」「近畿ブロック高齢・退職者連絡会」の中央・地域が取り組む、年金・

医療・介護などの政策・制度改善運動に積極的に参加するとともに、中央の「ゼンセン高齢労働者福祉財団」にそった活動、そして基盤としての会員との意思疎通のための活動を推進してきました。

今日まで取り組んできた生命と暮らしを守る運動にかかわらず、例えば長期につづく低いというよりむしろ無いといえる預・貯金金利、七十歳以上無料から一割負担へと改悪された医療費問題など、我々の制度改善への願いは逆に制度改悪・負担増へと展開しており、世界に類を見ない速さで進行する我が国の高齢・少子化社会への進行と併せて、厳しい現実を目の当たりにする結果となっています。

本年示された「二十一世紀における社会保障のあり方」の基本的スタンスは財

安定感のある長期的な

社会保障政策を

滋賀退職教職員協議会 会長 亀川 正春

連合滋賀高齢・退職者団体協議会（連合滋賀高退協）が、結成十周年を迎えたことを互いに喜び合いたいと思います。

私どもの「滋賀退職教職員協議会（滋賀退教）」の結成は、一九八二年と少し古いものの、それまでは職種を超えた退職者組織のみなさんとの交流はありませんでした。しかし、連合の結成に続いて滋賀高退協が組織され、職種の枠を超えた広範な活動、とくに、年金・医療などの高齢社会に対応した諸要求運動が活発に展開できたり、交流できるようになったことは、力強い限りです。

政治的な見地からの給付削減と負担増であり、聖域なき構造改革プログラム「痛みを伴う改革」で高齢者はもろに痛みを強いられることが必至な情勢にあります。

今現に高齢・退職者組織の会員である我々は、我が国が戦争の荒廃から立ち直り目覚ましい経済発展を遂げるなかで、自らを犠牲にしてまで貢献してきたものであり、厳しい経済情勢とはいえそれらの貢献が蔑ろにされて良いわけがありません。

「連合滋賀 高退協」が結成十周年を機に、高齢者が安心と展望のもてる生活を送るためのより大きな力の結集体となることを願い、ゼンセンOB友の会・滋賀県支部として各組織の仲間の皆さんと連帯し、問題解決のため前進するのみであることを誓いたいと思います。

急速に高齢社会に進む日本、しかし、国の対応は残念ながら小手先の糊塗策ばかりで、根本解決を先送りするばかり



滋賀退職教職員協議会恒例の作品展

りです。一刻も早く、確固として、安定感のある長期的な社会保障政策を、提示すべきです。国民もそのためなら、応分

の負担増は覚悟の上だと思っています。連合が、連合高退協が、この運動でも先頭に立つて奮闘しようではありませんか。

ゆたかな「高齢社会」の

実現をめざして

NTT労組退職者の会

滋賀県支部協議会

北村

芳郎

私たち連合滋賀高退協は、本日結成十年の記念すべき日を迎えることができました。一九九二年六月「ゆとり・豊かさ・公正な社会」の実現を目指して結成され、あれから十年、私たちは年金・医療等の問題について重要な課題として取り組んできました。こんにちの日本の政治・経済・社会は、かつてない低迷と混乱のさ中にあり、あらためて高齢者組織の責務の重大さを痛感します。

痛みを強いる政策は断じて容認できません。高齢化社会の到来は自明のことながら高齢者が積極的な社会参加を基調とする社会の主要な担い手としての役割と、それを受容し対応する社会基盤の整備が図られねばなりません。

連合滋

昨年四月発足した「変革」を旗印にした小泉内閣は高い支持率を得ましたが、いまの自公政権に対する支持だったのか極めて疑問に思うのです。景気は依然として低迷をつづけ、低金利そして失業率は五%台に高止まりしたまま、患者負担のみを先行させ、抜本的改革の先延ばしを繰り返す医療保険制度と、物価スライド制の凍結解除、給付切り下げ等、先行き不透明な年金制度は、暮しを、将来への不安をさらに増大させています。小泉総理は「構造改革」を声高に繰り返していますがその方向は国民大多数にとって決して望ましいものではありません。こんにちの閉塞状況を引き起こしたのはまぎれもなく自民党を中心とする政府の失政にほかならないのです。その責任を棚上げしたまま働く者や国民に一方的に

賀高退協結成十周年を一つの節目として組織の充実・発展と、高齢社会におけるわれわれの責務の完遂のため、全力を傾注することを確認し合いたいと思います。



滋賀県支部協議会水口地域「健康ウォークラリー」参加の皆さん

中野会長、堀田副会長を偲んで

電機連合・乙酉会 嶋澤 順三

一九九二年六月五日、鳩の浜荘で結成総会を開いてから、またたく間に十年が経過した。当日、私は司会を担当し、開会及び閉会の挨拶を述べた。滋賀高退協発足に当たっての三役は、会長に中野惣太郎さん(ゼンセン同盟)、副会長に堀田正雄さん(国鉄)と私(電機連合)、事務局長に北村芳郎さん(全電通)の四名であった。

それから十年が経過してみると、中野さんと堀田さんは既にこの世の人ではなく、北村さん(現在副会長)と私の二人が生き残った。私にしても、これから十年たてば八十七歳である。生きている保障は全くない。高退協はなにしろ、高齢者、退職者の集いであるから、次から次へ、あの世からお迎えがきて当然である。そう思うと、なにかもの悲しい気持ちにもなる。

中野惣太郎さんと私は、かつて労働金

安心の21世紀に

鉄道退職者の会 北川治太郎

一九六五年(昭和四十年)岡山での国労全国大会で退職者の組織化が訴えられ、七一年に全国結集を決定、七二年九月二十四日に「全国連合会」が結成され、丁度三十周年にあたります。

助け合いの共済事業「国労共済」も退職者まで対象にして、名称も「全国交通共済生協」となり、大きな企業になりました。しかし、新入会員は国鉄退職者で

庫で、理事長と理事の仲であった。私は中野さんの温厚で円満なお人柄に魅力を感じ、尊敬の念を抱いてきた。

堀田正雄さんと私は、かつて総評滋賀地評で議長と常任幹事の仲であった。堀田さんは、にぎやかなことが大好きで、なにかあると、「パアッ」とやろう」ということになり、度々酒席を共にした。当時は私もNECで一、二を争う酒のみで、のめば「侃侃諤諤」止まることがなかった。昔はお互いに貧しかったが、労働運動にかける情熱は激しかった。あの当時の熱気は、いまはない。

日本から労働者がいつの間にか姿を消したと思う。心から願った「平和と豊かさ」が労働組合をダメにしたのではない。こんな風に痛感するのも、私自身歳老いた故であろうと思うのである。

はなく、民営のJRの退職者で、何処の誰が何時退職されたのかも判らず、高齢による自然減少を補充するだけの加入者がなく、残念ながら衰退の一途にあります。

「年金・医療・福祉・介護の権利を確立し、高齢者が安心して暮らせる老後を！」と声を渾らしても、なかなか組織の求心力にはなり得ず、組織防衛に模索を重ねるばかりです。

しかし、救いもあります。過日、県高退協よりの要請により、「医療制度改悪」に反対する国会請願署名運動は、組織中央よりもありました。全会員を対象に署名を要請し、返信の切手（八十円）はカンパとして個人負担をお願いしたところ、県内の会員の約四割強の会員より二千五百四十二名の署名を集約。なかでも激励の文書や運動のカンパとして、郵便切手を署名に同封して戴いたのには感激しました。亦、組織の一大事業として、毎年

十年ヒト昔

全印刷局退職者会 近野 兼雄

「連合滋賀高齢退職者団体協議会」結成十周年、おめでとうございます。私達全印刷退職者の会を代表いたしまして、心からお祝いを申し上げます。昨年十一月前会長の小山氏の後任として新米のホヤホヤの会長であり、協議会の幹事であります。今後共良ろしくご指導を賜りますようお願い致します。さて早いもので私も定年退職して十年余、あまりの世情の変わりようには私達の年代の者にはついてゆけない程の早さで時代は流れ去ってゆく、まさに「十年ヒト昔」と言われる現実を実感として身を感じているのは私一人だけでは無いと思うが・・・

とくに六〇年代から七〇年代の組合運動に参画した私達にとって、どう受け止めてよいのか、政界・経済界・労働界、日本の社会全体が行き先が定まらない状態に進んでいるように思えてならない。「ヒサシを貸して本家を取られた」のだと悪い冗談が出る程の現実。
労働界の再々編成、それが現代日本の

バス三台を連ねての一泊旅行を盛大に実施しています。数年ぶりの再会に旧交を温め、過ぎし昔の話に花が咲き、「来年も必ず逢おうぜ!」と微笑ましい姿をそこ、ここみると、準備に費やした苦勞もいっしょに忘れてしまいます。
二十一世紀を「高齢者が安心して暮らせる社会」にするために、私たち全国連合会や県高退協等退職者組織と連帯し、共通する課題を前進させるため頑張っていきたいと思ひます。

労働界の進むべき方向の指針になるのだろうか。私は良し悪しを論ずるつもりはいささかもない。時代の流れ歴史の推移とだけで片づけるには余りにも重い荷物になりはしないだろうか。急速に進む高齢社会の中で高退協を中心にそれぞれの「退職者の会」としても、より強い連携を保ち地域社会への活動も重要になってくるのではないだろうか。

編集後記

十年の節目を迎え、記念号として「リフレッシュ滋賀」を発行することになりました。

滋賀の労働界やその運動を先導してくださった先輩方の原稿を読ませていただき、当時の熱い思いが伝わってきます。スタイルこそ変わっても大きな権力に毅然と立ち向かう姿勢を失ってはならないと改めて感じました。現職もがんばろう!!

～みんなで秋の京都を散策しましょうよ!～

京都、保津峡・嵯峨野ハイキング

日時：2002年11月12日（火）

◎集合場所：JR保津峡駅前（山陰線）

・経路 JR京都駅より山陰線に乗り換えて約20分。

◎集合時間：10時15分

（滋賀の参加者は京都駅山陰線より9時38分発園部行きに乗りしてください）

◎コース：JR保津峡駅→落合→六丁峠→鳥居本→念仏寺前→二尊院→常寂光院前→小倉池→トロッコ嵐山駅前

→大河内山荘前→嵐山亀山公園
（約6km・2時間、その内、落合→六丁峠の間に登りあり）

◎参加費：一人500円（連合滋賀高退協が負担）

ただしJR保津峡駅までの交通費は、個人または加盟組織で

※申し込みは、それぞれの組合にある退職者の会、もしくは連合滋賀まで。

◎締切り：10月10日

「家族のために、続けよう。」

加入者の方々の満足が

501万 件の

安心を育てています。

*2002年2月末現在の加入件数

満0歳から満80歳まで。
家族一人ひとりのニーズに合わせた
保障で毎日の暮らしをカバー。



家族の数だけ

こくみん共済

投稿歓迎!

会員の皆さんからの投稿をお待ちしています。原稿は左記までご送付ください。

〒520-0807 大津市松本2丁目10-16
連合福祉会館内
連合滋賀・高齢退職者団体協議会 事務局